



先人の思い現代に蘇るか
畑田東水路の改修

傷みの激しい畑田東水路

谷地区畑田内の水力発電所に送水している水路は、農業用水路として水田にも水を供給しています。畑田自治会からこの水路の改修を求める陳情が6月定例会に提出されました。

審査した教育経済常任委員会は、水路所有者がJAしまねになっていることから、継続審査にして調査してきました。

この発電所は、谷村農協時代(昭和の大合併前)に当時の組合長を中心に地域振興のため苦勞して整備したもので、昭和32年2月から稼働しています。

同年には赤来町が誕生し、農協も統合さ

れ、発電所は谷地区の住民から手の届かないところへ遠ざかってしまいました。さらに農協は、JA雲南、JAしまねに統合され、現在に至っています。

そしてJAしまねは、老朽化した発電所の更新には多大な投資が必要として断念し、手放そうとしています。このまま老朽化した水路を放置すれば、災害などにより崩壊の恐れもあります。そうならば水田も発電所も稼働できません。

議会は、本定例会でこの陳情を採択し、農地を守る決断をしました。

発電所については経済産業省の補助金



発電所

を使い、改修しても採算性があるか試算してみる考えです。もし、採算がとれると判断すれば、先人の思いが現代に蘇る可能性があります。



こんな田舎で人間らしい教育を受けさせたい、受けたいと移住してくる若者たちがいます。

空き家を借りて、土を耕し、汗とどろにまみれて、人間らしい暮らしが子供たちのためになると信じて一生懸命働いています。

飯 南高校には、県外から人とのふれあいや未知の文化を体験したくて入学してきます。休日には集落の行事に参加し、おじさんの昔話を聞き、おばさんのおいしい郷土料理に感激して、また次の機会を楽しみにしています。居ながらにしてこのような体験ができる地元の子供たちは、随分恵まれています。

環境を生かしながら、様々な体験を通じて豊かな人間性を培う教育を、町ぐるみで進めていきましょう。そのことが自分自身の豊かさとなって帰ってくるのです。

都 市部では、すでにこの精神は希薄となり、人と人のつながりは会社内の利害関係と家族の関係くらいになってしまいました。

しかし、田舎ではまだすたれずに守られています。消防団や自治組織など、共に奉仕することは当たり前、過疎・高齢化社会にあつて、互いに助け合う共助の精神なくしては安心して暮らしていきません。

この地を取り巻く自然は、時には厳しく、時には優しく包み込むように、四季折々の表情の中で生きる知恵や力を教え、人間も自然の一部であることを自覚させてくれます。

神 楽はややしこ、トロヘイなど伝統文化を守り、すたれた伝統の再生を試みる機運や次の世代を取り込むために新たな挑戦が始まっています。

まちづくり・人づくり

教育の基本は 田舎にあり

福 沢論吉翁は、「教育の基本は家庭にあり」と教えています。核家族化が進んだ今日では、「教育の基本は田舎にあり」ではないでしょうか。

先の大戦後、個の尊重を中心に据えた教育が推進され、日本人が本来持つ公共の利益や世間の務めに尽力する精神がすたれてきました。

平成18年の教育基本法の改定により、公共の精神の尊重、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成、伝統を継承し新しい文化の創造を目指すことが新たに規定されました。

このことは太古から日本人が培ってきたことで、精神の根幹をなすものです。